

使用前に必ず本説明書を読み、注意事項を守って使用してください。

トリニューモウイルス感染症（油性アジュバント加）不活化ワクチン

ノビリス TRT inac

製法及び性状

このワクチンは、弱毒七面鳥鼻気管炎ウイルスBUT1 #8544株を鶏胚線維芽細胞で増殖させて得たウイルス液にアジュバントとして軽質流動パラフィン、乳化剤としてポリソルベート80及びソルビタンモノオレエートを加え乳化し、油中水滴の状態にしたものである。本剤は白色の乳液である。

成分及び分量

| | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 小分製品 1 ボトル (500mL) 中 | |
| 鶏胚線維芽細胞培養弱毒七面鳥鼻気管炎ウイルスBUT1 #8544株 | 5×10 ⁴ ELISA単位以上 |
| 軽質流動パラフィン (アジュバント) | 215g |
| ポリソルベート80 (乳化剤) | 8.8g |
| ソルビタンモノオレエート (乳化剤) | 27.7g |
| グリシン (安定剤) | 2.5g |
| 注射用水 (溶剤) | 残量 |

効能又は効果

鶏のトリニューモウイルス感染による呼吸器症状及び産卵低下の予防

用法及び用量

- 単独で使用する場合
7週齢以上の種鶏及び採卵鶏の頸部中央部の皮下又は胸部筋肉内に1羽当たり0.5mLを注射する。
- ノビリス TRT・1000の補強用（L+K方式）として使用する場合
ノビリス TRT・1000を接種した種鶏及び採卵鶏の16～20週齢時に本ワクチン0.5mLを1回頸部中央部の皮下又は胸部筋肉内に注射する。

使用上の注意 【一般的注意】

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師の処方せん・指示により使用すること。
- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 採卵鶏又は種鶏を産卵鶏として食鳥処理場へ出荷する場合は、本剤は出荷前36週間使用しないこと。

【使用者に対する注意】

- 誤って人に注射した場合には、患部の消毒等適切な処置をとること。必要があれば医師の診察を受けること。その際、動物用油性アジュバント加ワクチンを誤って注射してしまったことを医師に告げるとともに本使用説明書を医師に示すこと。

本ワクチン成分の特徴

| 微生物名 | 抗 原 | | アジュバント | |
|-------------|----------------|-------------|--------|---|
| | 人獣共通 感染症の当否 | 微生物の 生・死 | 有無 | 種 類 |
| 七面鳥鼻気管炎ウイルス | 該当しない | 死 | 有 | ミネラルオイル (軽質流動パラフィン、ソルビタンモノオレエート、ポリソルベート80) |

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願いします。

株式会社インターベット 中央研究所 〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷1103

TEL: 029-898-3211

FAX: 029-898-3214

- 事故防止のため、作業時には手袋等を着用すること。

裏面へ続く

【採卵鶏及び種鶏に対する注意】**1 制限事項**

- (1) 本剤は肉用鶏には投与しないこと。
- (2) 本剤の注射前には健康状態について検査し、重大な異常を認めた場合は投与しないこと。
- (3) 対象動物が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与の適否の判断を慎重に行うこと。
 - ・発熱、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
 - ・疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。
 - ・明らかな栄養障害があるもの。
- (4) 本剤の注射後、少なくとも数日間は安静を努め、移動等は避けること。

2 副反応

本剤投与後、投与部位に腫脹、硬結等が認められる場合がある。

3 相互作用

本剤には他のワクチンを加えて使用しないこと。

4 適用上の注意

- (1) 注射部位を厳守すること。
- (2) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒した器具又は他の薬剤を使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- (3) 注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- (4) ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取扱うこと。

【取扱い上の注意】

- (1) 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- (2) 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- (3) 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (4) 使用時よく振り混ぜて均一とすること。
- (5) 本剤は粘度が高いため、あらかじめ常温(15～25℃)程度に戻してから使用すること。
- (6) 使い残りのワクチンは紙等で吸い取り可燃物として処分し、また、容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (7) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 直射日光又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。

貯法及び有効期間

- (1) 2～10℃に保存する。
- (2) 有効期間は製造後3年3か月間である（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）。



MSD
Animal Health

製造販売元（輸入発売元）

株式会社インターベット

茨城県かすみがうら市深谷1103